

日本の金融の未来ーアセットマネジメントの高みを目指す  
(ブルームバーグ主催)

岸田内閣総理大臣 締め括りスピーチ

(令和6年9月23日(月))

本日は、米国の財界人の皆さんの前でお話しする機会をいただき感謝申し上げます。一昨年、昨年に続き、私の第2の故郷、ニューヨークを訪れることができたことを大変嬉しく思う。

私は、この3年、歴史の分岐点とも言うべき大きな時代背景の中で、内外共に数々の難局に正面から取り組み、成果を上げてきた。

現在、ロシアのウクライナ侵略をはじめ世界各地で、国際秩序の根幹そのものが挑戦を受けている。この状況下で私は、日米同盟を一層強固なものとし、日本の防衛力を抜本的に強化し、そして「法の支配」に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くべく、外交面での取組に全力を挙げてきた。

私たちは、一体如何なる未来を、子供や孫の世代に受け継ごうとしているのか。それは、自由を束縛され民意が抑圧された世界では決してない。第二次世界大戦後に米国が中心となって築き上げてきた、自由と民主主義を根本に据えた、安全で平和な社会であるべきである。今、東アジアをはじめ世界中が、米国の関与とリーダーシップを必要としている。そしてそれは、米国自身の国益のためでもある。本年4月、米国連邦議会の超党派議員を前に行ったスピーチで私は、そういった米国の歴史的な使命についてお話をした。ホワイトハウスでの公式晩餐会では、スタートレックの有名な一節、「To boldly go where no one has gone before.」を引用して、日米同盟の未来を語った。日米財界人の皆様とも、この「Boldly go!」の精神で共に、堅固な日米関係と、自由、安全で開かれた市場の確保と発展に向け、協働できればと思っている。

日本経済は、30年間に亘り、長期の経済的低迷に悩まされてきた。この間のデフレ経済から脱却し、新たな成長型経済に移行するべく、経済政策に取り組んだ3年だった。大胆な労働市場改革に踏み切り、マークアップ率の向上に取り組んだ。半導体やAI、Green Transformationなどの戦略分野での大規模な投資促進策も導入した。結果、33年ぶりの高水準の賃上げ、過去最高の企業収益と設備投資、GDPの伸び、金融政策の正常化、資本市場の規模拡大など、その成果は、広範なデータに現れている。「変化を力にする改革」の大きなトレンドは、新たに選出される新政権の下で、更に加速されると期待している。

こうした経済の好循環を金融面から支えるのが資産運用立国の取組である。

私は、就任当初から、貯蓄から投資へのシフトを大胆に進めるためのNISAの抜本的拡充やコーポレートガバナンス改革の一層の推進を表明してきた。さらに、資産運用業の改革、公的年金や企業年金をはじめとするアセットオーナーシップの改革を包括的に進め、日本のインベストメント・チェーンの強化を図ってきた。

これにより、株価は34年ぶりに最高値を更新し、一時約230兆円まで低迷した東証の時価総額も3月には初めて1000兆円を超えた。同時に、日本企業に「資本コストや株価を意識した経営」が定着しつつある。上場企業における昨年度の政策保有株の売却も過去最高水準となり、「持合い」を是とする日本の慣習は過去のものとなった。

こうした取組には、本日ご参加の世界を代表する金融機関やマーケット関係者をはじめ様々な方々から、ポジティブな評価を多数いただき、大変心強く思うし、私の改革意欲の支えになってきた。

しかし、ここで満足していない。資産運用立国は、日本全体の資金の流れを大胆に変えていく野心的な改革であり、継続性が重要だ。

私の当選同期の盟友であった故・安倍晋三元総理は、2015年9月、この場で、「私の改革リストのトップアジェンダは、コーポレートガバナンスの改革である」と語った。

私は、コーポレートガバナンス改革を一段推進することに加え、資産運用立国として包括的な金融改革を断行した。

私は退任するが、今後とも、日本政府は、資産運用立国の取組の果実を日本経済に定着させ、政策に対する国内外の信頼を得るために、金融関係者とコミュニケーションを継続し、継続的に改革を推進していくと確信している。このため、10月3日に、日米の主要資産運用業者をメンバーとして、「資産運用フォーラム」が立ち上がる。

そして、皆さんの強力なリーダーシップの下、日本への事業面・金融面での投資拡大を検討いただけると確信している。

私は、就任時に「Invest in Kishida!」と公言したことを、先ほど申し上げた。この機会に更に力強く、スタートレックのカーク船長を思い浮かべながら、申し上げたい。「Boldly invest in Japan, like no one has done before!」。

日本と米国は、これまでも、そして、これからも、自由、民主主義、法の支配、市場経済といった普遍的価値を共有し、経済的・政治的・社会的に強い繋がりを持つパートナーである。

MLBで大谷が過去に見たことのない、大胆なプレーを見せている。彼は日米間のパートナーシップの象徴だ。

資産運用立国の取組も、日米間のパートナーシップの象徴として、日米間の投資の流れとウィンウィンの関係を更に強固にし、日米及び世界の金融資本市場・経済の発展、輝かしい未来の実現に貢献していくことを期待して、私のスピーチを締めたいと思う。

本日は、お招きいただき、親切におもてなしいいただき、感謝する。

(以 上)